

令和 2年度

事務事業評価表 ( 令和元年度 の実績評価)

記入年月日  
令和 2 年 4 月 15 日

事務事業名		認知症施策推進事業				事業区分		担当	
						新規/継続	新規	事務事業No.	010604000987
						単独/補助	補助		040501
政策体系上の位置付け								所属課	高齢福祉課
政策体系	総合計画の施策名	0106 高齢者福祉の推進						課長名	
	政策名	01 子どもから高齢者まで健康で共生のまちづくり						グループ	地域包括支援グループ
	施策名	06 高齢者福祉の推進						担当者名	
	手段名	04 ④認知症への対応推進							
財務会計上の位置付け						事業期間			
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	介護保険特別会計		単年度繰返し ( 年度~)
	06	05	04	05	01	00	認知症初期集中支援推進事業		☞ 期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入
法令根拠	介護保険法								

【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その1)

(1) 事務事業の概要	
手 段	①事務事業の概要 (事務事業の全体像)
	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順
<p>①事務事業の概要 (事務事業の全体像)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、認知症の人やその家族に早期に関わる「認知症初期集中支援チーム」を平成30年4月1日~配置。認知症の早期診断・早期治療、本人の状態に応じて必要な医療、介護サービスに繋ぐ支援体制を構築する。</li> <li>認知症の専門医療機関を含む医療機関や介護サービス、地域の支援機関の連携を図るための支援や認知症の人やその家族を支援する相談業務を行う認知症地域推進員を配置し、地域における支援体制の構築を推進する。</li> <li>認知症の方や家族が孤立せず生活出来るように認知症カフェの設置を行い、支援する。</li> </ul> <p>②担当者が行う業務の内容・やり方・手順</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>認知症初期集中支援チーム</li> <li>対象者宅への訪問及び支援</li> <li>チーム会議の開催 (支援方針の検討、引継ぎ、支援終了の決定)</li> <li>外部チーム員への報償の支払</li> <li>医師会及び近隣医療機関との連携</li> <li>チーム検討委員会の開催</li> <li>認知症地域支援推進員</li> <li>認知症地域ケア推進員研修の受講とその手続き、受講費の支払い</li> <li>認知症の人やその家族への相談業務</li> <li>認知症の関係機関との連絡調整支援</li> <li>認知症ケアパスの普及</li> </ul>	

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
			(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)
・初期集中支援チーム、地域支援推進員研修受講 ・認知症初期集中支援チーム検討委員会の開催 ・初期集中支援チームマニュアル、使用帳票の検討など ・認知症ケアパスの普及 ・認知症カフェの開設準備	認知症カフェ実施箇所	箇所	0.00	1.00	1.00	1.00	1.00
	認知症初期集中支援チーム訪問数	回	2.00	5.00	5.00	5.00	5.00
	認知症初期集中支援チーム会議開催数	回	5.00	10.00	10.00	10.00	10.00
	認知症初期集中支援チーム検討委員会開催数	回	1.00	2.00	2.00	2.00	2.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
認知症の人とその家族 認知症の人を取り巻く地域、医療、福祉関係者	相談件数	件	36.00	45.00	50.00	55.00	60.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
認知症の方や家族が安心して暮らせる地域の体制を構築する。また、住民が認知症の予防、早期発見、早期治療に結び付く行動ができる。	認知症カフェ参加者数	人	0.00	74.00	80.00	85.00	90.00
	認知症初期集中支援チーム支援者数	人	2.00	2.00	5.00	5.00	5.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量 (事業費) の推移

投入量	事業費	財源内訳	30年度 (実績)	01年度 (実績)	02年度 (計画)	期間限定総投入量	
							国庫支出金
		県支出金	千円	96	53	170	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		使用料・手数料	千円	0	0	0	0
		その他	千円	117	64	203	0
		一般財源	千円	96	53	170	0
		事業費計 (A)	千円	501	277	883	0
		正規職員従事人数	人	4.00人	4.00人	4.00人	

事業費の内訳	01年度事業費 実績 (千円)			02年度事業費 予算 (千円)		
	08 報償費	102		08 報償費	383	
09 旅費	19		09 旅費	39		
11 需用費	62		11 需用費	79		
12 役務費	2		12 役務費	6		
13 委託料	50		13 委託料	240		
19 負担金補助及び交付金	42		14 使用料及び賃借料	56		
			19 負担金補助及び交付金	80		
		合 計	277		合 計	883

事務事業名	認知症施策推進事業	事務事業No.	10604000987	所属課	高齢福祉課
(4) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？					
認知症施策は、平成27年の介護保険制度改正、認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）に基づき実施する。認知症初期集中支援チームの設置、認知症地域支援推進員の配置は、地域支援事業として平成30年度までに全ての市町村での実施が義務づけられている。					
(5) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？					
かかりつけ医から専門医療機関へのスムーズな連携体制づくり、家族の精神的な負担の緩和に取り組んでほしい。					

【See】 2. 評価の部 \*原則は事前評価。

評価項目	
改革改善を行う	①政策体系との整合性（この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？） <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 当事業を実施することで、認知症の人とその家族を支える体制づくりが推進される。
	②公共関与の妥当性（なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？）（法定受託事業はその名称） <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 地域で支えあう体制づくりが必要であり、地域包括ケアシステムの構築に合致している。
有効性	③成果の向上余地（成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？） <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある 認知症初期集中支援チームの設置による認知症の人や家族への個別支援、認知症地域支援推進員の配置による認知症カフェの設置、普及啓発活動の拡大が期待できる。
	④廃止・休止の成果への影響（事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？） <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 今後ますます認知症の人の増加が見込まれ、事業を廃止することで支援が滞り、介護者の負担が増加することが予想される。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性（類似事業や統廃合の可能性がありますか？（市以外の取り組みも含む）） （他に手段がある場合） <input type="checkbox"/> 具体的な手段、事務事業名 <input checked="" type="checkbox"/> 余地がない 平成30年度までに実施が義務付けられている新規事業であり、類似事業はない。
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地（成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？） <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 国の施策に基づいた新規事業であり、今後は事業費の拡大が見込まれる。
	⑦受益機会・費用負担の適正化余地（事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？） <input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 介護保険料が財源となっており、すべての高齢者が対象となっているので公平・公正である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性（次年度計画と予算への反映）

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括（振り返り、反省点）																								
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	⇒	認知症初期集中支援チームは平成30年度からの設置で、チーム員及びサポート医と連携しながら対象者2名を支援した。認知症地域支援推進員は、今年度12月に1名が新規研修を受講し、認知症の相談支援及び認知症ケアバスの見直しを行った。令和元年10月より認知症カフェの設置を行った。事業を円滑に進めるために担当者間での密な情報共有が必要。																								
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果（終了・廃止・休止の場合は記入不要）																								
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止		（複数回答可） <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																								
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策		<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> </tr> </table>				コスト					削減	維持	増加	成果	向上			○	維持	×	×	×	低下	×	×	×
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上			○																						
	維持	×	×	×																						
	低下	×	×	×																						
・認知症に関する相談は増加傾向であるが、認知症初期集中支援チームの支援件数は少ない状況である。支援件数を増やすため、認知症初期集中支援チームに関する周知を徹底する。また、認知症初期集中支援チームの活動は、認知症サポート医との連携が必須であるが、認知症サポート医が1名のため、医師との会議の日程調整に時間がかかり、対象者への支援開始までに時間を要してしまう。そのため、今後は、認知症サポート医の確保も検討していく必要がある。  ・令和元年10月より認知症カフェが設置されたが、参加者数を増やすため周知の徹底や出張カフェの開催を検討していく必要がある。		(6) 事務事業優先度評価結果 成果優先度評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> ⑧																								

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価（課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合）
課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> B A：継続（現状維持） C：終了、廃止、休止 B：継続（改革改善を行う） D：2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>